



AUE News

2014年3月15日

第 79 号

編集・発行

愛知教育大学広報チーム

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

● 行事予定(3月16-31日)

● トピックス

- ・附属高等学校卒業証書授与式
- ・「エコキャンパスづくりプロジェクト」2013年度成果報告会
- ・科学・ものづくりセンターの設備機器報告会
- ・書道専攻・書友会卒展
- ・理科実験プレ教員セミナー
- ・天文台一般公開

・わたしと地球の環境展

・個別学力検査等後期日程

・音楽選修・専攻など学業成績優秀者表彰

● お知らせ・報告・投稿

・「特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト」シンポジウム

・「発達障害者の支援に関わる者の専門性の追求」フォーラム

・本学HPに「AUE News & Topics」新設

・催しもの案内

行事予定(3/16-31)

- 19日(水) 代議員会 (13:30～ 第五会議室)
教育研究評議会 (代議員会終了次第, 第五会議室)
- 20日(木) 財務委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 21日(金) 代議員会 (15:30～ 第五会議室)
- 24日(月) 卒業式 (10:30～ 講堂)
大学院修了式 (18:30～ 第五会議室)
- 25日(火) 経営協議会 (14:00～ 第三会議室)
顧問会議と経営協議会との合同会議 (15:30～ 第五会議室)
- 26日(水) 教員人事委員会 (13:30～ 第五会議室)
- 27日(木) 役員会 (10:00～ 学長室)

トピックス

附属高等学校卒業証書授与式(3/3)

附属高等学校の第39回卒業証書授与式が3月3日(月)に本学の講堂で行われました。各クラスの担任から卒業生189人の名前が読み上げられた後、卒業生代表の伊藤彩夏さんに卒業証書が授与されました。



式典では、早瀬和利校長が「本校での学びを土台に、それぞれの分野で自分を鍛え、自らの意思で判断し、みなさんが学びの中で力強く成長することを期待しています」と式辞。松田正久学長は「なぜと問う心を培い、これからのボーダーレス化が進む社会の中で、真摯に社会と向き合い、矛盾を見つめ、自分の立ち位置をきちんと自覚しながら着実に歩んでいってほしい」と述べました。

続いて、太田直子PTA会長からは「新たな人生を踏み出すに当たり、東日本大震災に思いを至らせ、

当たり前の暮らしを当たり前にするができることのありがたさをかみしめ、日々の感謝を忘れないようにしてほしい」とはなむけの言葉をいただきました。

最後に生徒全員の校歌合唱により、感動のハーモニーを響きわたらせた後、拍手の中、卒業生は新たな決意を胸に附属高校を巣立っていきました。(附属高等学校 教頭 稲澤由以)

「エコキャンパスづくりプロジェクト」2013 年度成果報告会(3/3)

「環境教育と環境教育の融合によるエコキャンパスづくり」プロジェクトは、本学の特別経費事業の一つ(2011 年度から 2014 年度の 4 年計画)です。本学の様々な分野の教員がこのプロジェクトのメンバーとなり、(1) 安全・安心・快適なキャンパスづくりの推進(2) 環境問題に直面する現代社会をサポートする環境科学・技術開発の推進(3) 持続可能な環境づくりを担う教員や社会人の養成—を目的として、それぞれの課題を設定し、それを達成すべく研究および教育活動に励んでいます。



2013 年度成果報告会は、3 月 3 日(月)午後 1 時から、1 人の外部評価委員と 2 人の内部評価委員の立ち合いの下に開催され、11 人の課題担当者が、それぞれの研究課題、教育課題について、1 年間の成果を報告しました。その中には、画期的な研究成果と思われるものもいくつか含まれており、また、教育大学ならではの取り組みも報告され、活発な質疑応答が交されました。報告会の最後には、評価委員から建設的な講評をいただきました。プロジェクトの最終年度となる来年度に向けて、大変有意義な報告会となりました。

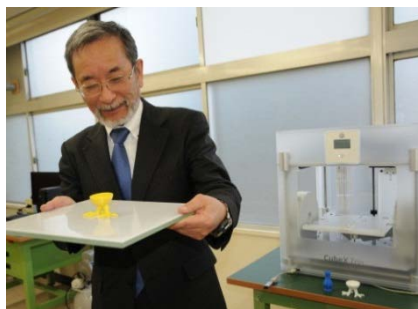
(保健環境センター センター長 三宅明)



科学・ものづくりセンターの設備機器報告会(3/3)

本学の「科学・ものづくり教育推進センター」に新たに設置された設備・機器の報告が、3 月 3 日(月)に自然科学棟演習棟 102 室で行われました。

新規に導入されたのは、気象観測・データ、天体観測用好感度テレビカメラ、ハイスピードカメラ、赤外線サーモグラフィ装置、3Dプリンター、レーザー加工機、表面荒さ計、物性評価装置、薄膜評価システム、環境化学分析機器、光学特性評価システム、ミニバイブレータ、地震計の 13 設備。これらは、国立大学強化推進事業の「HATOプロジェクト」の予算で調達したもので、今後、授業や訪問科学実験、科学・ものづくりフェスタなどで活用されます。



報告会では、3Dプリンターの実演が行われ、3Dスキャナーで読み込んだエッグスタンドを、プリンターで約 1 時間かけて再生。また、レーザー加工機でアクリル板や木片、紙などから切り取った加工品も披露されました。

岩山勉センター長は「どういう使い方をして、どう生かすかが課題ですが、見ているだけでも興味を持ってもらえそう」と話し、来年度からの利用計画を作成中です。

書道専攻・書友会卒展(3/4-9)

本学書道専攻 11 期生・書友会の卒展が 3 月 4 日(火)～9 日(日)、名古屋市博物館で開催されました。

今春卒業する14人が卒業制作した作品を中心に展示。手本を忠実に書き写す臨書、自由にアレンジする創書の計19点が並べられました。7幅の大作から巻物の額装、未来の自分へ贈る言葉を寄せ書きした扇など形態はさまざまで、題材も漢詩や般若心経、小倉百人一首など多彩で、作品ごとに特徴をとらえて表現しています。

最終日は、松田正久学長も会場を訪れ、学生から作品の説明を受けて鑑賞。出品した学生から「石に彫られた力強い文



字が気に入ってテーマを選び、自分でアレンジするのが楽しかった。4年間の集大成です。4月からは小学校教員になりますが、子どもたちに書道の楽しさを教えたい」「お手本を基に、自分らしく表現したいと挑戦しましたが、なかなか先生から合格をもらえず、大変でした。でも、いろいろな見方が分かって、きれいに書くだけが大切でないことを知りました。家族も見に来てくれて、嬉しかった。愛教大で4年間過ごしてよかった」などと聞いて、「これから

始まる教員生活に大学で学んだことを生かして、頑張ってください」と激励していました。

また、会場には卒業制作作品の他、教員やOB、在学生の作品も合わせて展示され、卒業展に華を添えていました。



理科実験プレ教員セミナー(3/5-14)

この春から小中学校の教員になる学生を対象にした「理科実験プレ教員セミナー」が、3月5日(水)～14日(金)、自然科学棟で行われました。同セミナーは、理科実験指導の不安解消の助けになるようにと、本学の科学・ものづくり教育推進センターが主催しています。

中学校理科教員のためのセミナーは5日から14日にかけて、化学、生物、物理、地学の計9講座。水の電気分解、植物細胞を見る、地震と防災教育など中学校教員として知っておくべきことを、実験・観察を中心に実施され、4年生だけでなく、1～3年生、大学院生など合わせて延べ23人が参加しました。



小学校教員のためのセミナーは6日(木)に行われ、最低限知っておかなければならない内容として、顕微鏡の使い方、化学薬品と実験器具の取扱い、電流・電気、流水の働きと大地のつくりの内容の4講座が行われました。本学の学生以外に、他大学の学生も合わせて15人が参加して、メモを取るなどして熱心に受講していました。

参加した学生は「やったことのない実験もあって、ためになった」「身近な材料で、子どもたちに興味を持たせる実験・観察ができることが分かった」「当たり前と思っていたことも、セミナーを受けて理解が深まった」などと感想を話していました。

天文台一般公開(3/8)

本学天文台での第90回一般公開が、3月8日(土)午後5時から、自然科学棟で開催されました。天文ミニ講座は、一般公開を手伝う4年生と院生の卒業・修了研究の内容が紹介され、3D

上映会、観望会が行われ、学生と一般の計 28 人が参加しました。

午後 5 時からのミニ講座「私の卒業研究から」では、澤武文研究室の 5 人の学生が「星団の観測と色一等級図の作成」「天体现象の流体実験」「宇宙の環境問題～スペースデブリ」「大小マゼラン雲の軌道の研究」と、各自の研究を紹介。天文台の 40 cm 望遠鏡や CCD カメラで撮影した画像を基に解析したデータなどを使って、それぞれの約 30 分ずつ研究を紹介しました。



観望会は、天文台ドームが工事中のため使えず、小型の望遠鏡を 3 台準備しましたが、あいにくの曇り空で観測ができない状況で、望遠鏡が撤去されたドームを見学。「次回の 4 月 19 日の一般公開では 60 cm 望遠鏡で観望会を行う予定です」と澤武文特別教授から案内がありました。

また、3D 映像で宇宙の旅を楽しむ上映会では、3 年生の学生が解説を担当して 3 回実施されました。



わたしと地球の環境展(3/11)

地球環境を考える「わたしと地球の環境展」が 3 月 11 日（火）、名古屋市中区のナディアパーク 3 階のデザインホールで始まり、松田正久学長が開会式に出席して、他の来賓とともにテープカットを行いました。



同展は国連の「持続可能な開発のための教育の 10 年」「生物多様性の 10 年」を支援する企画。地球上の環境問題を分かりやすく解説し、解決に向けた様々な取組を紹介しています。同展は 16 日（日）まで。

開会式は 100 人余りが見守る中、大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長ら来賓が祝辞を述べた後、知事、市長らとともに松田学長がテープカットをして、開幕。続いて、出席者は

関係者の説明で会場を回りました。「地球の今」「地球の歴史」「アマゾンの昆虫標本」「究極のエコシティ江戸」などのコーナーに最新技術を使った映像や貴重な標本が展示され、松田学長はアマゾンの蝶やカブトムシを興味深げに観察し、自転車をこいで発電、扇風機を回すコーナーでは背広を脱いで、自転車に乗りエコによる電力づくりを体感、その力強さに入場者から拍手を浴びました。また、新聞記者の取材に「愛教大は環境重視型エコキャンパスを目指してきました」などと話していました。

個別学力検査等後期日程(3/12)

2014 年度入学の個別学力検査等後期日程が 3 月 12 日（水）に第一共通棟などで実施されました。

志願者は 1,508 人、うち 636 人が受験。午前 8 時前から受験生が訪れ、出身校や塾の先生からの激励を受けて、会場へ。それぞれ志望する選修・専攻・コースの筆記や実技の試験などに挑みました。合格者は 3 月 23 日（日）午後 1 時に講堂で発表され、大学の公式ホームページでも公表されます。

音楽選修・専攻など学業成績優秀者表彰(3/13)

音楽選修・専攻、教育学研究科芸術教育専攻の学業成績優秀者の表彰が 3 月 13 日（木）、学長室で行われました。

この表彰は、本学の故水野久一郎名誉教授のご令息、水野達郎氏による愛知教育大学教育研究基金への寄付金から音楽講座専用との指定を受けて支出、成績優秀者への表彰という形で実施されました。

式には、対象学生 12 人のうち、欠席者を除く 10 人と、学長、役員、音楽講座の教員らが出席。松田正久学長から、今回の受賞の趣旨が説明され、表彰状と記念品の図書券が一人ひとりに手渡され、「これからも一層、学業に励んでください」と激励の言葉が贈られました。この後、記念写真の撮影が行われ、出席者全員が笑顔で写真におさまりました。



なお、この表彰は研究基金を基に、今後 5 年間にわたり続けられる予定です。

お知らせ・報告・投稿

「特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト」シンポジウム(報告)

1 月 12 日(日)に愛知県産業労働センターで、HATOプロジェクト「特別支援教育の多面的・総合的支援プロジェクト」シンポジウムを開催しました。テーマは、「教員養成系大学・学部における発達障害学生への支援」で、発達障害者に焦点を当て、大学入試センター試験における特別措置の状況や入学後の支援を通して障害学生支援、配慮事項の在り方を協議するのが目的です。

シンポジウムでは、岩崎公弥教員養成開発連携センター長が挨拶し、都築繁幸副学長(平成 25 年度プロジェクト代表)が趣旨説明を行いました。



続いて、西村優紀美富山大学保健管理センター准教授が「大学における発達障害学生の支援」について講演。同大における「発達障害としての支援が必要であると総合的に判断される学生」に対する相談・支援活動を中心に、サポートチームの形成、学生支援センターの取り組み等、発達障害学生が教育学部で学ぶ際の課題や支援の在り方について提案がありました。

また、山本利和大阪教育大学特別支援教育講座教授が「教員養成大学における障害学生支援のための取り組み」をテーマとして基調報告。その後、都築副学長から「大学入試センター試験における特別措置の実施状況」、萩原拓北海道教育大学旭川校特別支援教育分野教授から「青年期の自閉症スペクトラム障害」、森脇愛子東京学芸大学障がい学生支援室特任講師から「障がい学生支援室の取り組み～支援の実際と課題～」、奥田紗史美大阪教育大学カウンセリングルームカウンセラーから「学生相談の実践を通して一カウンセラーの視点から一」について、それぞれ話題提供がありました。

最後に、松田正久学長より閉会挨拶が述べられ、幕を閉じました。なお、参加者は 70 人でした。



(教育創造開発機構運営課 プロジェクト係長 近藤雄作)

「発達障害者の支援に関わる者の専門性の追求」フォーラム(報告)

2月23日(日)に愛知県産業労働センターで「発達障害者の支援に関わる者の専門性の追求」フォーラムを開催しました。現在、インクルーシブ教育システムを構築しようとしていますが、それを実現するには、すべての教員が、特別支援教育に関する一定の知識・技能を有していることが求められます。学校現場において発達障害に関する専門的・実践的な知識を有する教職員を育成するプログラムを開発するために、特別支援教育支援員と通級指導教室に焦点を当てながら、発達障害者の支援に関わる者が習得すべき知識等は何か、専門性とは何かを協議しました。



はじめに松田正久学長から挨拶、都築繁幸副学長から趣旨説明がありました。

この後、中久木俊之氏(子ども支援室カシオペア)が「NPO法人主催による発達障害対応支援員の養成講座の現状と課題」をテーマとして報告。その後、吉田優英氏(ディスレクシア協会名古屋)から「特別支援教育支援員に求められるもの」、粕谷美喜江(ディスレクシア協会名古屋)から「教員経験を通して見た特別支援教育支援員のあり方」、山本憲子教諭(知立市

立知立西小学校)から「通級指導教室の担当者の専門性を考える」についてそれぞれ報告がありました。

続いて、樋口一宗特別支援教育調査官(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課)が講師として「発達障害教育施策の動向～教員の資質・能力向上の視点から」をテーマに講演しました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、「発達障害者の支援に関わる者の専門性とは何か」をテーマとして、都築副学長の進行により、参加者からの質問に対して回答する形式で進められました。

最後に、都築副学長より挨拶があり、幕を閉じました。なお、参加者は116人でした。

(教育創造開発機構運営課 プロジェクト係長 近藤雄作)



「News & Topics」を本学HPに新設(お知らせ)

本学の公式ホームページが3月31日(月)午前9時からリニューアルし、トップページに「News & Topics」が新設されます。これによって、これまで月に2回発行していた「AUE News」は4月1日付発行の第80号を持って終了します。これまで、ご愛読いただきまして、ありがとうございました。

News&Topicは、広報会議で議論し、よりフレッシュな情報をお届けできるよう、皆さまからの投稿、記事を随時掲載していきます。投稿はこれまで通り、秘書広報課にお寄せいただければ、編集作業を経て、体裁が整い次第、順次掲載します。これからも、多くの寄稿をお待ちしています。詳細は間もなく、「フォーラム」(電子掲示板)などで案内します。

この件についての問い合わせ：秘書広報課 小林

TEL 0566・26・2738

E-mail:nkobayashi@office.aichi-edu.ac.jp

催しもの案内

◆第4回広報セミナー

3月26日(水) 10:00~11:30 当日参加可能、参加無料
本部棟3階 第五会議室

タイトル：「気持ちに届く『広報作成のコツ』—華のあるクリエイティブ—」
講師：プリ・テックグループ顧問 坂上博氏
対象：本学教職員・学生
内容：伝えたい相手に、正しく正確に情報を届けるための「広報作成のコツ」を、コンセプト開発からポスター、新聞等の表現まで、ケーススタディーを含め、筋道を立て紹介。業務だけでなく、プライベートでも役立つ内容でお届けします。
予約・問い合わせ：秘書広報課 TEL 0566・26・2738

- ◆第7回愛教大アカデミックカフェ「松田正久学長退任記念講演会」
3月28日（金）15：30～ 事前予約不要、参加無料
本部棟3階 第五会議室
タイトル：「物理学徒として歩んだ道 今、未来に伝えたいメッセージ」
内容：本学教員の研究成果やノーベル賞の内容を、“分かりやすく、楽しく”紹介する「愛知教育大学 アカデミックカフェ」。その発案者でもある松田学長が、この3月で退任するにあたり、特別編として講演会を開催します。
問い合わせ：秘書広報課 TEL 0566・26・2738
E-mail:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

編集後記

本学の魅力を学内外にアピールしようと、広報担当者は大学ニュースの発信や広報誌などの発行、高校生・保護者対象の大学見学会、大学紹介DVD作成などに、ここ数年、力を注いできましたが、果たしてその思いは届いたのか…という、反省と改善の連続です。「伝えたいことを伝えたい人に伝えるには」のコツを掴もうと、3月26日に広報のプロを講師に招いて、セミナーを開催します。普段、あなたの“思い”は部下・上司・同僚・先生・学生・家族・友人…にうまく伝わっていますか？ 「はて？」というあなたはもちろん、「自信あり！」というあなたもいま一度確認のため、この機会をご活用ください。（K）

投稿のお願い

学内外の出来事（教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など）に関するニュースの提供をお待ちしております。
メール：kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者：総務担当理事 折出 健二